

平成 28 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	ユズ既存樹のせん定による樹形改善が収量および収穫効率に与える影響		
[要約] ユズ既存樹のせん定による樹形改善を行うことにより、受光体制が改善され、無せん定樹と比較し収量は増加する。また、収穫効率はせん定前と比較し1~3割向上する。					
キーワード	ユズ	既存樹	樹形改善	技術部	果樹研究室

1 背景とねらい

陸前高田市では、東日本大震災以降、地域のユズを「北限のゆず」としてブランド化し、復興のシンボルにしようという取組が見られている。

当市における現状のユズ生産は、民家の庭先に点在した既存樹の果実を利用しており、ほとんどの樹が無せん定状態で樹高が6~8mと高く、枝が混み合い受光体制も悪い。そのため、収穫できる果実が限られ収量が低く、収穫効率の低下にもつながっている。

そこで、ユズ果実の安定供給を図るため、既存樹のせん定により結実部位を下げる樹形改善処理を施し、収量の増加と作業性の改善効果について実証を行った。

2 成果の内容

- (1) 樹形改善は主枝の切り下げと、枝が混み合っている部分の間引きせん定を行い、樹冠内に光が入るよう開心形に近づける。強せん定を避けるため、樹高は年1m程度を目安に段階的に低下させ、目標樹高は3~4mとする(図1)。
- (2) 樹形改善を行うことにより(図2)、受光体制が改善され、無せん定樹と比較し収量は増加する(表1、図3)。また、結実部位が下がり、ほぼ全量収穫が可能となる(表1)。
- (3) 収穫効率(10kgあたりの収穫時間)はせん定前と比較し1~3割向上する(表1)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) せん定時期は樹の枯れ込みを防ぐため、厳寒期を避け、4~5月を目処に実施する。
- (2) せん定後伸長した春枝、夏枝が翌年の結果母枝になるため、夏以降のせん定は徒長枝の除去程度にとどめる。
- (3) ユズは隔年結果性が強いいため、年により収量が大きく変動する場合がある。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

ア 適応地帯：陸前高田市

(2) 期待する活用効果

ア ユズ既存樹の収量が向上し、作業性が改善される。

イ ユズ原料の安定供給につながる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H25-13) ブランド化を促進する果実等の生産・加工技術の実証研究

(2000) 「北限のユズ」の加工利用を推進する安定生産技術の実証と商品開発
[H25~H29、独法委託]

6 研究担当者

浅川知則、佐々木真人、柳本麻衣

7 参考資料・文献

平成 25~28 年度 岩手県農業研究センター 果樹試験成績書(一部未定稿)

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

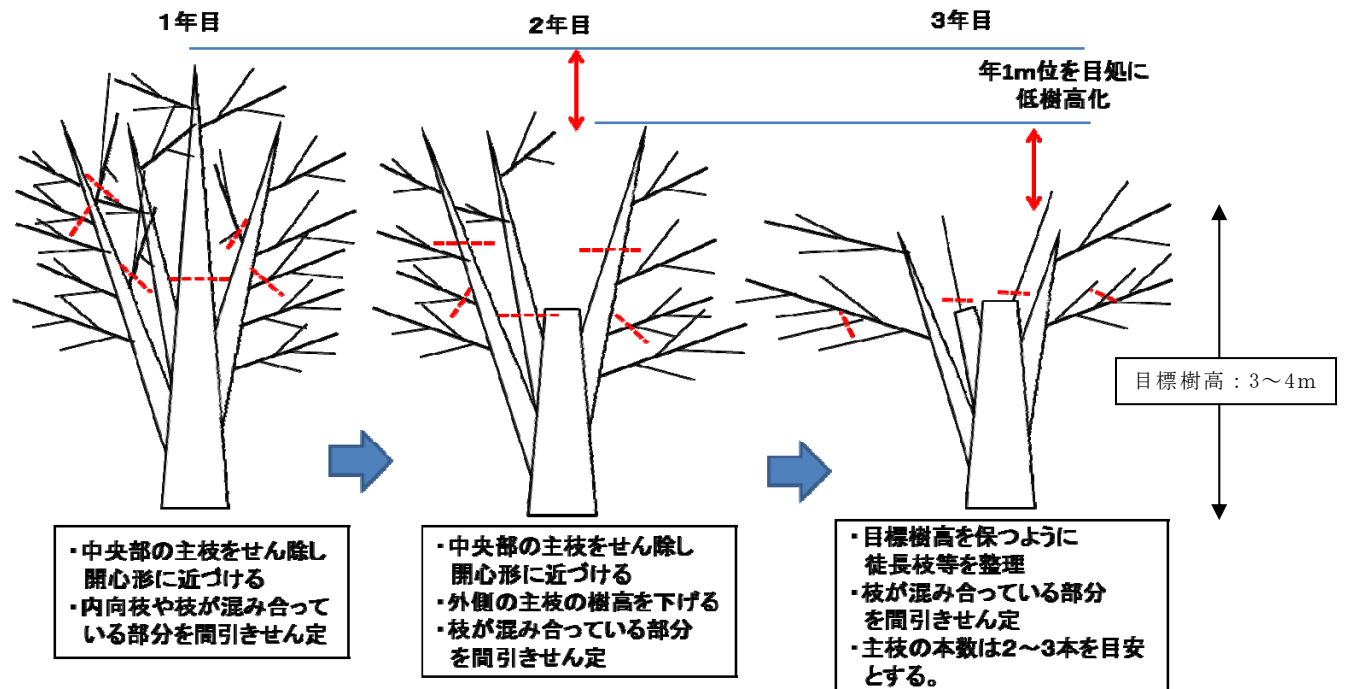


図1 樹形改善方法の概要



図2 樹形改善樹の状況
(左：せん定前 (H25)、右：せん定後 (H28))



図3 樹形改善樹の着果状況 (H28)

表1 収量および収穫効率

試験区	年度	樹高 (m)	収穫作業時間 (のべ時間)	収量 (kg)	10kg あたりの収穫時間	未収穫果実数 (個)
樹形改善樹	H25	6.4	1時間30分	33.4	26.9分	0
	H26	5.1	8時間24分	181.9	25.1分	126
	H27	4.4	1時間2分	39.6	19.9分	7
	H28	4.1	6時間40分	147.8	24.0分	0
無せん定樹	H25	6.3	1時間32分	29.1	31.6分	15
	H26	6.6	1時間35分	29.0	33.0分	65
	H27	6.7	3時間13分	62.1	31.2分	150
	H28	6.7	49分	14.2	34.5分	50

※H25の樹高はせん定前の樹高。

※収穫作業時間はのべ時間に換算（収穫作業人数 H25：2名、H26～28：3名）

※収穫作業時間・収量には、区外（周囲の障害物等により収穫効率計測から外した部分）も含む。

※未収穫果実数は手が届かない等で収穫出来なかった果実数（概数）。収量には含まない。